

<応募した動機>

2008年1月からブータンテレコム(BT)にSVとして派遣せられている佐藤(順)です。

1984年から2年間、JICAの長期専門家としてグアテマラに派遣されて以来、約20年間、NTTの業務を通して、いろいろな形で国際協力に従事してきた。

2004年4月に、NTT東日本を退職し、地域会社に移籍し、久しぶりに国内業務に戻った。しかし、浦島太郎のようであった。NTT勤務の2/3を国際協力に費やし、その中で培ってきたノウハウがあるので、それを生かしたいと思っていた。

2007年4月に地域会社内の移動で専門とはかけ離れた業務になったのを機会にシニア海外ボランティア(SV)に応募することにした。以前から58歳になったら応募したいと考えていたが、一年早まり57歳の派遣となった。

<応募から派遣まで>

もともとは交換が専門であったが、2007年春の募集では通信関係はブータンの「次世代ネットワーク」しかなかった。「ボランティア要望調査票」をみると中身は“Intelligent Network(IN)”のようである。INを次世代ネットワークと誤訳しているようであった。INなら以前に交換システム研究所で従事した経験があり、INの仕組みは大体わかっていたのでこれならできるのではないかと思った。

もうひとつ関心があったのはパラグアイの職業訓練校の“職業訓練管理”であった。

中南米の仕事が多かったのでスペイン語圏に行きたかったのと、マレーシアのマルチメディア人材育成調査やパナマのIT技術者育成促進調査などに従事し、現地の大学や職業訓練学校の調査を通して、職業訓練の運営に対して関心を持ったからである。

SVは2つ希望を出せるのでブータンとパラグアイの2つに応募した。

一次試験(書類選考)の結果パラグアイが落とされた。やはり職業訓練運営の経験がなかったからだと思われる。

ブータンは2次試験までいき、面接と語学試験を受けた。

面接ではボランティアについての考えをしつこく質問された。それまでは専門家の仕事の延長ととらえていたので、あまりボランティアとは何か考えたことはなかったが改めてボランティアは何か考えさせられた。面接官がどのような回答を求めているのかわからないが、SVの待遇面を言っていたのではないかと思われる。

もともとボランティアは奉仕活動であり、収入を得ることが目的ではない。だからJICAが支給するのは最低限生活することができる程度である。

1,2年前まではSVは専門家に準じる扱いをしており、派遣手当や一時帰国制度や健康管理旅行制度(例えばブータンは高地なので低地のバンコックなどに健康管理のため旅行を認める制度)などかなり優遇されていたが、SVもJOCV(青年海外協力隊)も同じボランティアという考えで次第に待遇を青年海外協力隊(JOCV)に近づけている。

派遣前研修もJOCVと一緒にいき、同じ研修内容になっている。

これに対して、一部のSVからは、SVは経験を積んだプロ集団なのに、経験の少ないJOCV

と一緒にされることについて不満も出ている。

60 歳代以上で年金を受給している人ならなら問題ないが、40 歳代、50 歳代で家族を抱えている人はかなり厳しいと思う。

話を 2 次試験に戻し、語学試験の問題はあまり覚えていないが TOEIC ぐらいの難しさだったと思う。6 割ぐらい取ればいいのかと思っていて。

2007 年 8 月に 2 次合格が来た。10 月から 12 月まで 65 日に長野県駒ヶ根市の訓練所で研修が始まることになった。研修終了から派遣までは 1、2 週間しかないとのことで、8 月から 10 月の間に出発の準備をした。指導科目が次世代ネットワーク (NGN) なのか Intelligent Network (IN) なのか、それとも NGN のなかの IN 機能なのかハッキリしなかったのとあわせて、両方の準備を始めた。NGN は NTT でも 2007 年からトライアルが始まったところであり、概要は分かっていたが詳しくはわからなかった。とりあえず、NGN の IN 機能について知っている部署を探すことから始めた。NTT の研究開発センターや研究所に聞いてもよくわからなかった。昔研究所で一緒だった人が NTT-AT におりそこで NGN の IN 機能の概要を教えてもらった。その他、NGN の標準化動向などインターネットから ITU-T のドキュメントなどを集めた。

9 月末で退職し、10 月から研修所に入った。退職から入所まで 10 日あまりしかなく、その間健康保険や国民年金への切り替え、雇用保険の支給延長などの手続きをした。

研修所は若い JOCV との共同生活であり、体力や語学研修などに一抹の不安があったがどうか 65 日間を過ごすことができた。私の指定語学は英語であり、入所最初に試験がありそれで 4～6 人のクラスに振り分けられた。私は 6 人のクラスで、JOCV 4 名、SV 2 名であった。大体レベルは同じ程度であり教師はイギリス人であったが無理なく進められた。

<ブータンテレコム>

2008 年 1 月 28 日から配属先のブータンテレコム (BT) に入社した。

社長 (Managing Director) に挨拶したあと、カウンターパートと対面した。

IN 担当は 1 名で 26 歳の若い技術者である。IN 担当は料金部門に属している。

BT は固定電話加入者 3 万、携帯電話加入者 15 万の小規模な設備です。

固定電話網の交換機は無償資金協力で導入された NEC 製です。携帯電話 (GSM) は Siemens 製、3G は Ericsson 製です。

固定電話の一部で Alcatel の VoIP システムが使われており、BT では NGN と言っております。要請された指導内容は、今後導入予定の IN サービス (Tele-Voting (電話投票 : NTT サービス名 : テレゴング)、Revenue Share (収入分配方式 : 日本では行われていない) などのアドバイスと日本での実施例です。

BT は Alcatel 製の IN システムを使用している。その他、新技術の紹介として、NGN の技術の研修を行った。

NGN の定義は定かでない。既存の電話サービスをソフトスイッチに置き換え、IP 化したものを NGN と呼んでいる場合もあるし、QoS を保証し、広帯域のサービスの導入を可能にしたものを

NGN と呼んでいる場合もあります。小生が研修で説明したのは ITU-T で標準しているものです。

<ブータンでの生活>

現地での生活で一番先に始めなければならないのは住居探しです。

小生は無精なので掃除も食事も作らなくていい、サービス・アパートを探してもらった。

JICA 事務所のボランティア調整員の紹介で、勤務先に近い（徒歩 10 分）にある、少し古く、さほど広くない（1LDK）が、大家さんが気さくで住み心地のよさそうなアパートを借りることができた。大家さんの話では、以前に NTTOB の SV の根岸さんが住んでいたとのことであった。

食事は、朝、昼は自分で簡単なものを作り、夕食は大家さんにブータン料理を作ってもらっていた。

ブータン料理は辛い（トウガラシ）、固い（牛などの乾し肉）、脂身（豚）がメインであり、あまり健康には良くない。8 月に入って夜中に腹痛が走り、二度ほど国立病院の緊急センタのお世話になった。夜中に大家さんの娘を呼び出し、車で病院まで送ってもらった。胃カメラを飲むことになった。タイで研修してきたという年配の医師が行った。割と上手であった。

病名は胃炎とのことでしばらくブータン料理は控えるように言われた。そのため、三度の食事を自炊することになった。野菜、果物などは市場に行けば日本にあるものはだいたい手に入る。肉も牛、豚、鶏など購入可能だが、鮮度がいいのか悪いのか判断しかねるので未だ買ったことがない。鮮魚は売っているには売っているがこれも鮮度の問題で買う気がしない。

乾燥した魚を市場などで売っているが衛生上買う気がしない。

もっぱら缶詰（ツナ、イワシ、サバなど）でタンパク質をとっている。

日本の刑務所の食事のほうがよっぽど豪勢である。

娯楽は、山また山の国でありトレッキングが有名であるが、ものぐさなので行っていない。

テニスやソフトボールをするボランティアもいるがそれもしない。

9 ホールのゴルフ場があり、たまにゴルフに行く程度である。

言葉は、小学校から英語教育が行き届いているので、ほとんどのブータン人は英語が堪能である。国語（ゾンカ）や地方言語（シャジョップ、ネパニー…）があるが、ゾンカを使わなくても生活に困らない。

先日、タイ（バンコック）に行ったがタクシーや店でほとんど英語が通じないのには驚いた。